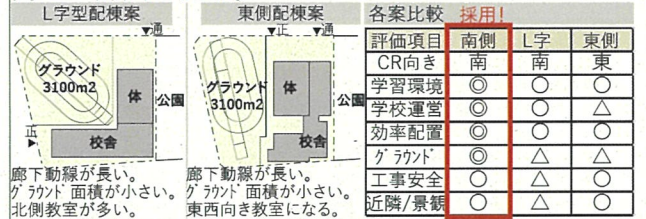


件名 二谷小学校建替設計業務委託

児童・職員・地域と緑を未来へとつなぐ新しい学び舎
施設計画の特徴

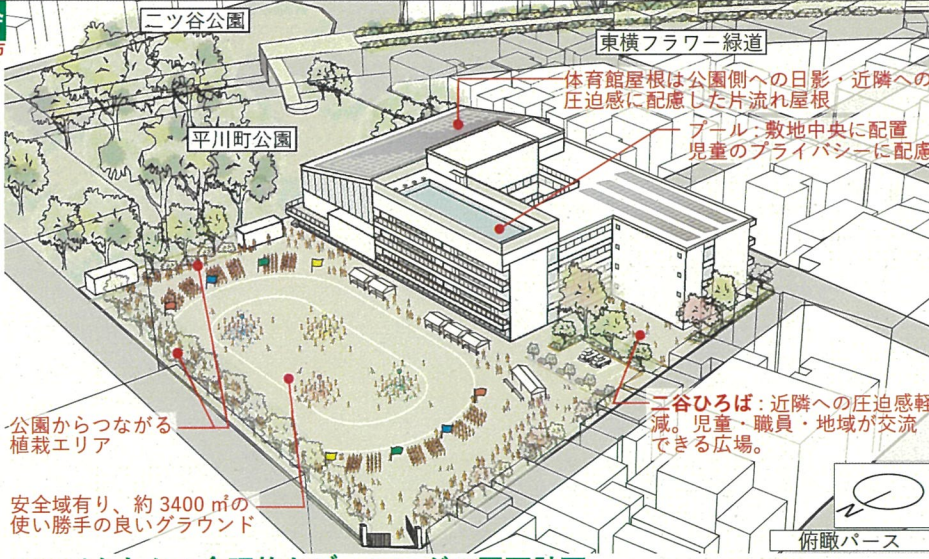
- 1 使いやすい日影・風環境の良いグラウンド
 - 2 合理的なゾーニング・学年ユニット
 - 3 移動しやすい円の字型回遊動線
 - 4 環境ポイドを中心としたエコスクール
 - 5 地域の環境に配慮した植栽計画
- 近隣配慮+大きなグラウンドを実現

配置分析: 多方向から配棟計画の比較評価を行い、**南側配棟案**を提案。
コンパクトな配置計画: 狭小敷地に適したコンパクトなボリュームを配置し、近隣への圧迫感を軽減、ゆとりのある外部空間を創出。
二谷ひろば: 正門・昇降口前に位置し、児童・職員・地域住民の拠り所となるオープンスペース。
グラウンド: 5m以上の安全域かつ校舎に正対したトラック。3400㎡以上の理想的なグラウンド。
地域とつながる緑化空間: 東横フラワー緑道から公園までつながるグリーンベルトを敷地内に取り込み、みどり豊かな学校と地域環境を創出。
三面接道と公園に面する立地条件: 周辺環境に配慮した配置計画により、敷地内外の安全性・利便性を高める計画を提案。

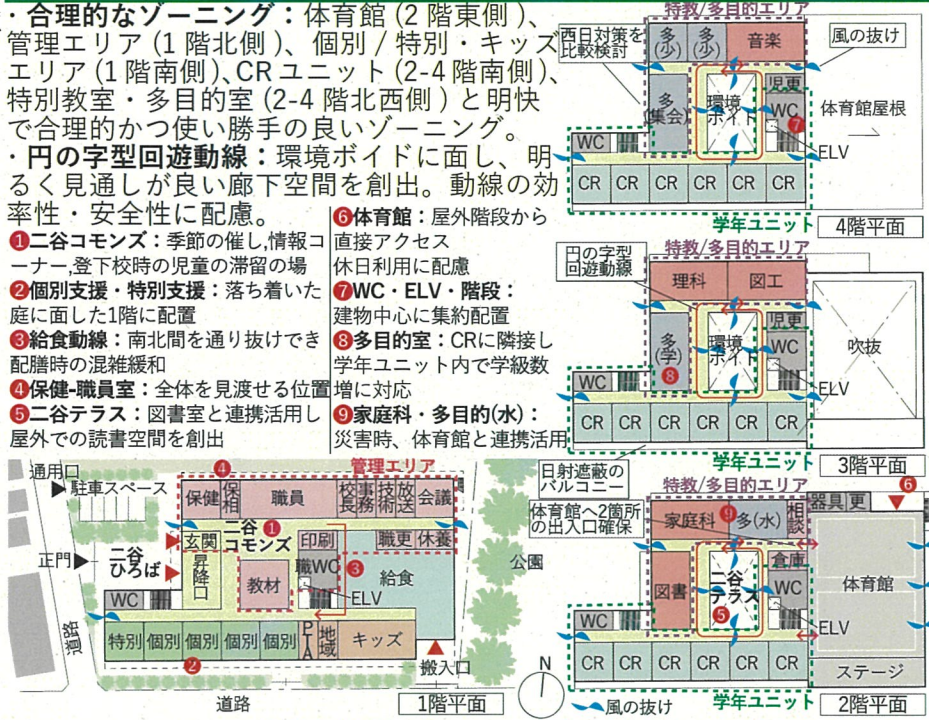


児童の安全確保と学校運営に配慮した工事計画

【②解体I】・B棟仮設階段建設を不要とし、児童の安全を確保する。南側校舎配棟による既存体育館の杭引抜本数を削減。
・工期・工事費の削減。
【③校舎建設】・児童動線を明確に分離。児童の安全確保に努める。
・既存校舎A-1棟は校舎建設時も運用可能な別案の提案が可能。学校運営に配慮し、協議の上決定。
【④解体II】・仮設グラウンドの早期供用開始。
他校建替実績に基づきR12年度夏休みの新校舎引越しを目指す



コンパクトかつ合理的なゾーニングの平面計画



多様な学習形態・CR変動に対応する工夫

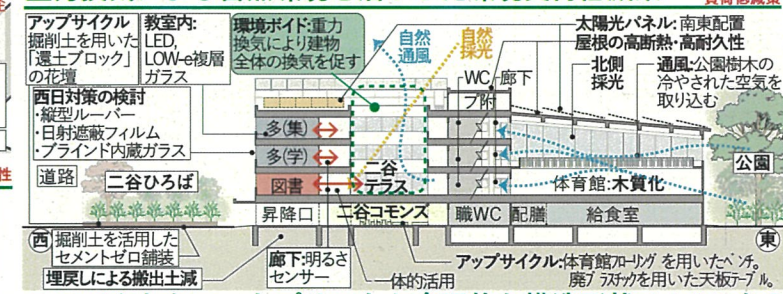


事務所の商号又は名称 株式会社 川喜田建築設計事務所

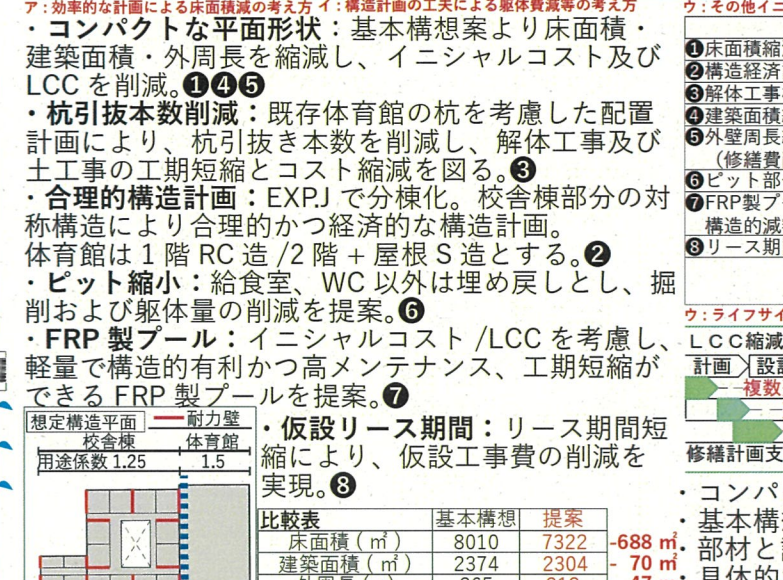
建物内外の日照・通風データ解析による高効率な配置計画



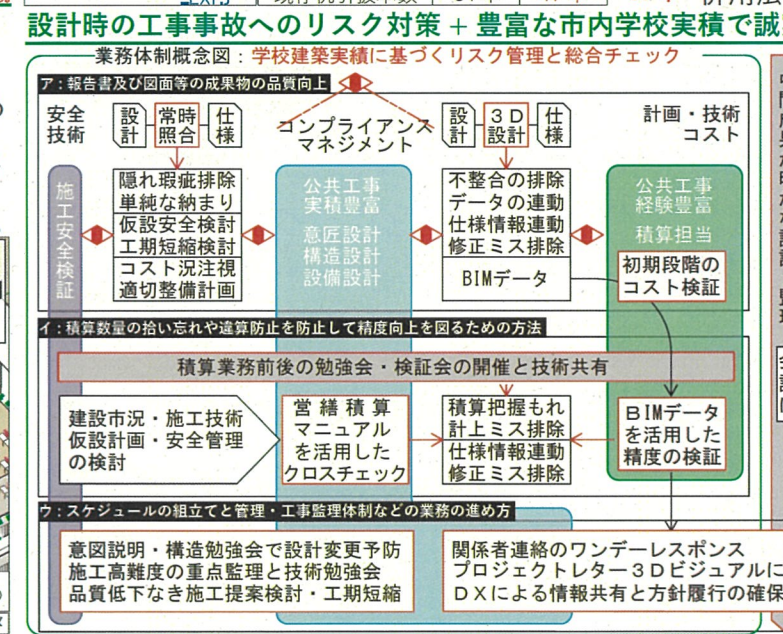
重力換気による自然環境を活かした環境負荷低減策



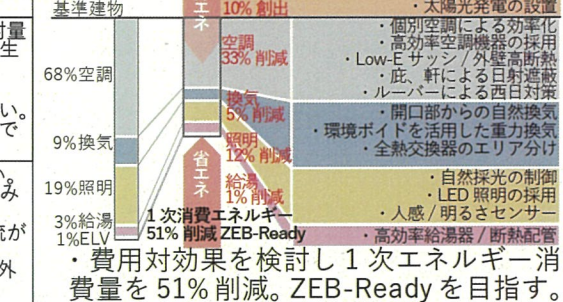
コンパクトなフットプリントと合理的な構造形状でLCCを28%削減



設計時の工事事故へのリスク対策+豊富な市内学校実績で誠実な対話設計を実施



環境負荷低減及び省エネルギー等の考え方



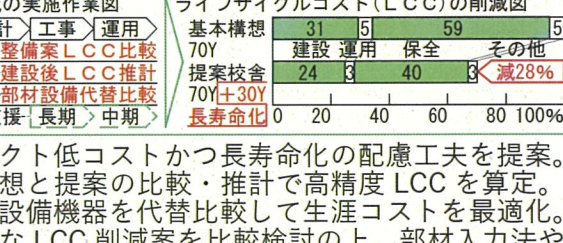
アップサイクル・県産材活用の促進

・みんなが集まる共用部を中心に既存体育館のフローリング材を内装材、サインや家具へ転用。木材のアップサイクルを実施。
・地域開放する体育館内装に県産材を用いた木質化を行う。児童と地域の人々にも還元。
・建具や什器など日常的に手に触れる部分を木質化し、木の温かみある空間を創出。
・設計時に県産材調達調査を行い、採用検討、木材活用の促進を図る。
・維持管理に配慮した木質化の提案。

コスト削減の考え方

提案減額項目	工期(累積)	コスト(想定)
①床面積削減	-3.5	▲2.4億円
②構造設計による躯体量の削減	-	▲0.1億円
③解体工事杭引抜本数の削減	-1.5	▲0.3億円
④建築面積削減による土工、杭工事の削減	-1.0	▲0.2億円
⑤外壁延長削減による躯体量の削減(修繕費削減によるLCCの削減)	-	▲0.1億円
⑥ピット部分削減による躯体量の削減	-1.0	▲0.4億円
⑦FRP製プールによる躯体量削減、軽量化による構造の減額	-	▲0.1億円
⑧リース期間短縮による仮設工事費の削減	(-7.0)	▲0.4億円
合計	-7.7月	▲4.0億円

ライフサイクルコスト削減に向けた具体的な方策



コンパクト低コストかつ長寿命化の配慮工夫を提案

・基本構想と提案の比較・推計で高精度LCCを算定。
・部材と設備機器を代替比較して生涯コストを最適化。
・具体的なLCC削減案を比較検討の上、部材入法や併用法により、36%削減を目指します。
・関係者間の連携・取組体制
・設計情報を一元化・統合した簡潔で統制ある成果物を作成。
・中間成果・目標を可視化して共有できる詳細な工程を管理。
・着工後の設計変更を排除する着工前後の説明勉強会を実施。
・ケアレスミス・ヒヤリハットを前提とした違算防止を対策。
・フロントローディング手法で課題の多角検討を早期に実施。
・安心安全な施工計画および発生土処理方策など低炭素に資する調整。
・地域や旧校舎のレガシーに係るワークショップを実施。
・既設埋設管の位置調査や既存杭の位置出し調査等、工事での事故・工程遅延を防止するために、リスク対策となる調査を設計段階で実施。